

# すまうらこうえん 須磨浦公園の自然

源平合戦(げんぺいがっせん)ゆかりの須磨浦(すまうら)には、ふるい歴史があります。平家物語によると、一ノ谷で平氏と源氏(げんじ)の戦いがあり、平敦盛(たいらのあつもり)が海に追いつめられ、うち死にしたと伝えられています。

須磨浦公園には桜(さくら)と松の林があり、花見シーズンには大ぜいの人でにぎわいます。海に向かって国道をトンネルでくぐると須磨海づり公園があります。山に向かうにはロープウェイみひこ・やまひこが便利です。乗るとガタガタするカーレーター、ゆっくりとまわる回転展望台(かいてんてんぼうだい)があって昭和の空気が流れています。さらに鉢伏山(はちぶせやま)から観光リフトにゆられて須磨山上遊園にいけます。

須磨浦公園は関西を代表する56kmのロングトレイル「六甲縦走路(ろっこうじゅうそうろ)」のスタートで、ゴールの宝塚(たからづか)を目指して、ハイカーやトレイルランナーたちが集まります。

みなさんが手にとっているこのマップは、サクラの花びらが散ってから、あたたかい雨をうけて植物たちが生長する梅雨までの季節の自然観察ガイドマップです。ツバメが南からやってきて、元気いっぱい空を飛び回ります。木々たちが花をつけると、クマバチやハナムグリが花粉にむらがりまわります。道ばたでガサガサと音がしたら、足を止めて静かにしてみましょう。青いしっぽのトカゲのこどもがでてくるかもしれません。雨が続きあとの林では、丸い形や細長い形のカラをもつカタツムリが見られるでしょう。鉢伏山や旗振山(はたふりやま)にあがると、風によってアゲハたちが集まります。



ウバメガシの林  
尾根(おね)には、ウバメガシがびっしりです。

コナラの林  
コナラ、アベマキのほかカゴノキやカクレミノなどいろんな木が競争するように枝(えだ)をのばします。ヤマモモが赤い実をつけ、甘い香りがします。オサムシの仲間やチョウがいます。

クロマツの林  
松と桜の明るい広場になっています。ツバメ、ハクセキレイ、ムクドリがよくいます。いつもドバトとトビがいます。ベンケイガニが海から水路にあがってくる場合があります。

アカマツの林  
潮風(しおかぜ)があたる南斜面(みなみしゃめん)には、アカマツやウバメガシが生えています。5月にセミが鳴いていたら、それはハルゼミでしょう。6月ごろ咲くアカメガシワやクマノミズキの花には、ハナムグリの仲間やクマバチが群がります。

ヒメガマの池  
春の雨で水がたまり、ヒメガマがのびています。オオシオカラトンボのオスがなわばりをはっています。



明るい広場と暗い林のさかい、水辺にいきものが多いよ。つかまえたら、図かんで調べて、にがしてあげよう。

- ・ぼうし
- ・運動ぐつ
- ・ハンカチ、タオル
- ・あみ、かご
- ・ムシよけ
- ・図かん



## 服と持ちもの

### ●ツバメ

春になるとやってくるわたり鳥で、よく家に巣をつくり、子育てします。巣で待つヒナに、飛びながらエサをやるほど、飛ぶのが上手な鳥です。気持ちがいくらい自由に、空を飛び回ります。



### ●モンキアゲハ

須磨浦公園でよく見られる大型のチョウで、黒いはねに白い紋(もん)があります。山の遊歩道で、羽ばたくモンキアゲハと、よくすれちがいます。鉢伏山や旗振山のてっぺんが、チョウの道になっているようです。



日光が力をつけ、木々が明るい葉をのぼす季節、たまごからカマキリががえり、さなぎからチョウがでできます。土の中や木のかけで越冬(えっとう)していた甲虫(こうちゅう)たちも、動き始めます。須磨浦公園はそうした虫たちで、にぎやかになります。花にはハナバチやハナムグリがむらがり、山のてっぺんにはチョウが集まります。やがてくもりや雨のすっきりしない天気が続く梅雨がきます。風がなくむし暑い日は、虫たちにとっていい天気です。

## 須磨浦公園の虫たち

### ●ナナフシモドキ

ぼうのようなからだで、木のまねをする虫です。じっと動かないナナフシモドキは、もはやえだです。見のがしているだけで、実は数多くいるのかもしれません。メスだけで、たまごを産んでふえるという不思議な虫です。



### ●オオミズアオ

黄色い星型のつのがあり、なにやらだものでないこの大きな毛虫は、オオミズアオの幼虫(ようちゅう)です。成虫は上品な水色をした大きなガで、一度見たらわすられない虫です。



### ●コアオハナムグリ

クマノミズキやアカメガシワの花に集まるコガネムシの仲間です。からだを花粉まみれにして、無心に食べている様子は幸せそうです。シロテンハナムグリやキムネクマバチなどほかの虫たちも、よくいっしょにいます。



### ●シオヤアブ

梅雨ごろ須磨浦公園のあちこちにいます。黄色と黒のトラ柄(がら)です。おしりの先に白い毛が集まっているぼうがオスです。肉食のアブで、えものに飛びつくと、ふとい足でかかえて、するどい口でさしてしまいます。



### ●ツマグロヒョウモン

明るいオレンジ色にヒョウ柄(がら)が入ったハデなチョウです。鉢伏山や旗降山のまわりでよく見られます。なわばりに入ってくると、自分より大きなアゲハチョウでも追いかける気の強いところがあります。



### ●ネジキ

日当たりがよいおねで、よく見られる木です。しぼったそうきんのようになじれる樹皮(じゅひ)が特長です。よくかぶ立ちした細い幹(みき)をネジネジとさせています。梅雨前ごろ、つりがね型の白い花をひっそりとならべます。



### ●ウシカメムシ

むねに大きな角をもつカメムシです。角が大きすぎて目立ちそうですが、えだのトゲにもみえます。近づいても、すぐに飛ばず、えだのうらへ回りこんでかくれるのは、変装(へんそう)に自信があるのかもしれませんが。



### ●ヤマモモ

須磨浦公園によくある木で、オスとメスがあります。メスの木には、あまずっぱく、ヤニの風味がきいたおいしい実がなります。チッソという栄養を空気からもらうことができ、やせた土でも育つことができます。



### ●アオスジアゲハ

黒いはねにはいる青いストロボもようが美しいチョウです。空高く飛びますが、水や花を目指して地上におりてくることがあります。幼虫(ようちゅう)は須磨浦公園に多いクスノキを食べます。



### ●ニイニイゼミ

梅雨ごろからジーとながく鳴くセミです。サクラに好んでとまるといわれ、広場のサクラで見られます。ぬけからは小さくてどろがついているのが特長です。地面の近くにあることが多いので、低い場所で羽化しているのでしょう。



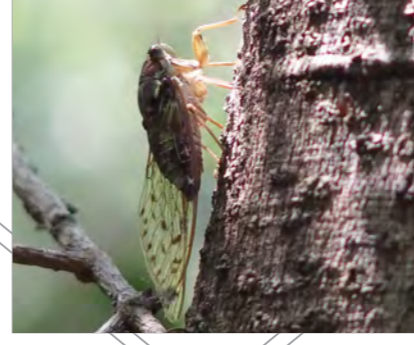
### ●オオヒラタシデムシ

マットブラックの平たいからだの甲虫(こうちゅう)です。幼虫(ようちゅう)も成虫も地面を歩き回り、ミズなどの死体を食べます。見てあまり気持ちいいものではありませんが、自然界をきれいにする大切な役目をもっています。



### ●ヒグラシ

太陽が西にかたむき、遠くからカナカナカナカナと物悲しげな声が出たら、それはヒグラシです。この心地よいBGMからは、すすしささえ感じられます。真夏のセミの合唱にかき消される前まで、この声を楽しみましょう。



人間の子どもと大人は、体重こそちがいますが、すがた形にちがいはありませんね。しかし虫はたまご→幼虫(ようちゅう)→さなぎ→成虫と変身をくり返します。春になると、こうした虫たちの子どもが見られます。チョウやガはイモムシのすがた、バッタやカマキリは、まだはねがありません。セミは土の下にいますが、羽化(うか)するため地上にでできます。

## 虫たちの子ども

◎お問合せ  
(公財)神戸市公園緑化協会  
〒664-0163 神戸市須磨区緑台  
電話 078-795-5656

